

Honda

Honda エコ マイレージ チャレンジ エントリーガイド

Eco Mileage Challenge ENTRY GUIDE



君は
1リットル
の燃料で
どこまで
行けるのか？

現在の最高記録(ハイオク燃料)
(2011年 ツインリンクもてぎ)

3644.869km

HONDA
The Power of Dreams

How we move you.
CREATE ▶ TRANSCEND, AUGMENT



環境とものづくりをつなぐモータースポーツ 『Honda エコマイレージ チャレンジ』

～環境課題への取り組みを続けてきたHondaが開催する燃費競技 その歴史と大会の概要をご紹介します～

日本だけでなく世界でも環境問題が顕在化しはじめた1960年代から、Hondaは環境問題への取り組みを続けてきました。1970年代には、排出ガスを大きく減らした低公害エンジン「CVCCエンジン」を開発し、当時世界で最も厳しい自動車の排出ガス規制といわれた米国マスキー法に世界で初めて適合しました。1992年には環境活動の基本方針として「Honda環境宣言」※1を制定し、資材の調達から設計、開発、生産、販売、使用、廃棄に至るまで、製品のライフサイクル全体で環境負荷を減らす取り組みを進めています。現在は「Triple Action to ZERO」※2という考え方のもと、2050年に環境負ゼロ社会を目指した取り組みを進めています。こうした環境への取り組みの中から生まれたユニークな活動の一つが『Hondaエコ マイレージ チャレンジ』です。

1981年に『Hondaエコノパワー燃費競技大会』としてスタートしたこの競技は、「1リットルの燃料でどこまで走れるか」を競う燃費競技として始まりました。以来、中学生・高校生・大学生を中心に、多くのチームがものづくりの楽しさや創意工夫を競い合う大会として発展してきました。

第1回大会が行われた鈴鹿サーキットでは292.5km/ℓ、桶川の特設コースでは624.8km/ℓを記録。その後も記録は年々向上し、第31回大会(2011年)では3644.869km/ℓという驚異的な記録も生まれま

した。大会の参加チーム数も増加し、1990年には300チームを超え、2000年代には400チーム以上が参加する大会へと成長。

一方で、大会は社会情勢の影響も受けてきました。東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の拡大により大会開催が見送られる年もありましたが、多くの参加者や関係者の支えにより大会は継続され、現在も次世代の技術者やものづくりを志す学生たちの挑戦の場として受け継がれています。

近年では、地球環境への配慮をさらに高めるため、新たな取り組みも進められています。2024年からは100%非化石由来のカーボンニュートラル燃料を導入し、2026年にはすべてのクラスでカーボンニュートラル燃料へ完全移行します。さらに、電動化の広がりを見据えた電動二輪車クラスも新設されるなど、大会は時代に合わせて進化を続けています。

『Hondaエコ マイレージ チャレンジ』は、燃費記録を競うだけの大会ではありません。参加者一人ひとりが創意工夫を凝らし、環境やエネルギーについて考えながら車両を作り上げることで、未来のモビリティや持続可能な社会を考えるきっかけとなる大会です。これからも多くの挑戦者たちとともに、新しい時代のものづくりと技術の挑戦の場として、歩みを進めながら進化を続けていきます。

Honda エコマイレージ チャレンジの歴史

2025年	第44回	Honda Mobile Power Pack e:搭載の電動マシンによるエキシビション走行を実施 ハイオク燃料クラス最後の年、翌年よりカーボンニュートラル燃料へ完全切替 排気量規定の変更によりニューチャレンジクラス最後の年
2024年	第43回	カーボンニュートラル燃料クラスを新設
2023年	第42回	カーボンニュートラル燃料を使用したエキシビション走行を実施
2022年	第41回	3年振りとなる全国大会を開催 会場名称がツインリンクもてぎから「モビリティリゾートもてぎ」に変更
2021年	第40回	新型コロナウイルスの影響により中止
2020年		新型コロナウイルスの影響により未開催
2018年	第38回	「ニューチャレンジクラス」最高記録を更新:3,056.121km/ℓ
2014年	第34回	市販車クラスを「二輪車クラス」へ名称変更 エアードライヴポンプの義務化
2011年	第31回	最高記録更新:3,644.869km/ℓ(一般クラス)
2010年	第30回	30周年を機に、「Honda エコ マイレージ チャレンジ」へ名称変更
2009年	第29回	ツインリンクもてぎにて、もてぎ大会スタート
2006年	第26回	「中学生クラス」が独立したグループになり、グループ分けが改定される
2005年	第25回	「中学生クラス」と排気量50cc以上150cc以下のエンジンをベースとする「ニューチャレンジクラス」を設立
2004年	第24回	タイチームが見事優勝。本田宗一郎杯が初めて海外に渡る
2003年	第23回	大会史上初めて高校生クラスが最優秀チームとなり本田宗一郎杯を獲得
2002年	第22回	高校生クラスも最高記録に肉薄 22回全国大会再考記録:2,433.183km/ℓ 高校生クラス最高記録:1,912.545km/ℓ
2001年	第21回	タイ、ロシア、中国に加え、韓国チームも初参加 3,435km/ℓの歴代最高となる新記録が誕生(一般クラス)
2000年	第20回	海外から中国チームが初参加 3,165km/ℓの歴代最高となる新記録が誕生(一般クラス) また、高校生クラスもついに初の2,000km/ℓ台を突破 市販車クラスも444km/ℓの歴代最高記録を樹立
1999年	第19回	タイを加え、ロシアチームも初参加を果たす
1998年	第18回	海外からタイ、パキスタンのチームが参加 大会のグローバル化が始まる
1997年	第17回	会場が栃木県・ツインリンクもてぎへ移る
1994年	第14回	2,000km/ℓを飛び越え、3,014km/ℓの最高記録が誕生(一般クラス) 参加台数は歴代最多の546チーム
1993年	第13回	参加台数が500チームを超える
1992年	第12回	1,500km/ℓを達成(一般クラス) エキシビション競技として、2人乗りクラスが新設される
1991年	第11回	会場が茨城県・日本自動車研究所へ移る
1990年	第10回	参加台数が200チームを超える
1988年	第8回	学生クラスが高等学校・大学・専門学校の3クラス制になる
1987年	第7回	鈴鹿サーキットにて、鈴鹿大会スタート
1985年	第5回	1,140km/ℓを達成 50cc4ストロークエンジンでは世界新記録を樹立(一般クラス) HSR九州にて、九州大会スタート
1984年	第4回	最優秀賞「本田宗一郎杯」が最高記録チームに贈られる 全国大会が桶川特設コースでスタート
1983年	第3回	埼玉県・桶川特設会場での開催となる学生クラス新設
1982年	第2回	鈴鹿・桶川の2会場で開催
1981年	第1回	三重県・鈴鹿サーキットにて記念すべき「第1回Honda エコノパワー燃費競技全国大会」を開催 また、埼玉県・桶川特設会場においても開催

※1

Honda環境宣言

地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、
Hondaは、すべての企業活動を通じて、
人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に寄与し、
その行動において先進性を維持することを目標として、
その達成に努めます。

以下に、私たちの日々の活動にあたって従うべきガイドラインを示します。

1

私たちは、商品の研究、開発、生産、販売、サービス、廃棄という
ライフサイクルの各段階において、
材料のリサイクルと、資源、エネルギーの節約に努めます。

2

私たちは、商品のライフサイクルの各段階で発生する廃棄物、
汚染物質の最少化と適切な処理に努めます。

3

私たちは、企業の一員として、また社会の一員として、
人の健康の維持と地球環境の保全に努力することが重要であると認識し、
積極的に行動することに努めます。

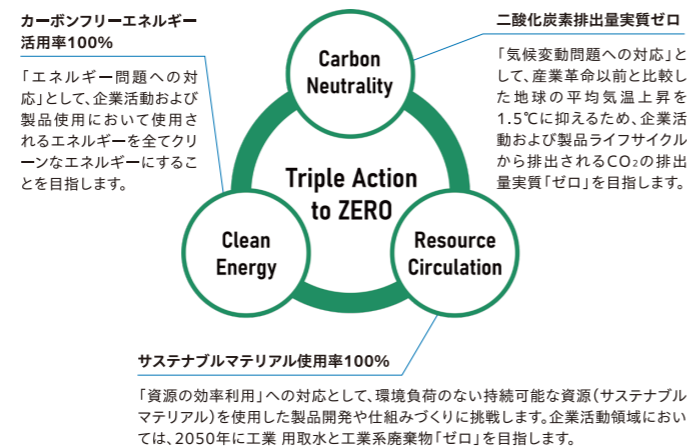
4

私たちは、事業所の活動が、それぞれの地域の人たちの健康と環境や
社会に対し及ぼす影響について認識し、
社会から高い評価をいただけるように努めます。

1992年6月制定・発表

※2

Triple Action to ZERO



グローバル環境シンボル

丸い地球のモチーフのなかに、太陽と青空(きれいな空気)、きれいな水、そして緑豊かな大地といった「豊かで持続可能な社会」の実現のために必要な自然の恵みを表現しました。また、中央の白いラインはモビリティが自由に移動できる道を、ハートはHondaの環境への取り組みに対する想いや情熱を表現しています。



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

『エコマイレージチャレンジ』に 7 関する 7つのキーワード

ここでは『Honda エコマイレージチャレンジ』を
7つの特徴からひも解いていきましょう。
これを読めば、競技への理解度がグッと深まります。



01

競うのはスピードではなく、 何キロ走ることができるか。

～1リットルの燃料でどこまで行けるのか～

モータースポーツといえば、エンジンをフル回転させて速さを追求する競技が大半を占めますが、40年超の歴史を有する『Honda エコマイレージチャレンジ』は、まったく別の競技です。

本大会のテーマは、「1リットルの燃料で何キロ走ることができるか」。規定周回数(距離)を決められた時間のなかで走行し、燃料消費量から燃費を算出。燃費性能の高さを競います。

中学生クラスから一般クラスまで、出場チームは各々に究極の効率を求めて車両を製作し、そのポテンシャルを最大限に発揮する戦略を組み立てます。一方でドライバーには、チームで立てた作戦を遂行するための繊細な操縦テクニックが要求されます。勝利するためには、

車両の設計や形状、走り方など、ありとあらゆる要素の効率化が必要というわけです。

『Honda エコマイレージチャレンジ』は、燃費性能を追求する競技であると同時に、参加者が創意工夫を凝らして車両づくりに挑む“ものづくりの挑戦の場”として発展してきました。ちなみに過去の最高記録(ハイオク燃料)は、2011年第31回全国大会で記録された3644.869km/ℓ。毎年、この記録の更新を目指した熱戦が繰り広げられています。近年では燃費性能だけでなく、デザインやアイデアに工夫を凝らすチームも多く見られます。『Honda エコマイレージチャレンジ』は、自由な発想で挑戦できる競技大会でもあるのです。

02 栄誉の証。優勝旗が大会を盛り上げる!

『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』では、高校生クラスや大学・短大・高専・専門学校生クラスに加え、より若い世代にもものづくりの喜びと環境に対する意識を高めてもらう場として、2005年からは中学生クラスも新設しました。



年を追うごとに増えている全国大会の中学生・高校生クラスでは、全国高等学校野球選手権や全国高等学校ラグビーフットボール大会、全国高等学校サッカー選手権大会等と同様に優勝旗が設けられており、栄誉の証として、憧れの対象となっています。

03 『本田宗一郎杯』を争う全国大会

『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』の初回開催の1981年以降、専用車両による燃費競技として発展してきた本大会は、現在では日本国内だけでなく海外でも開催されています。その中でも、モビリティリゾートもてぎのコースで開催される全国大会は、本大会の頂点に位置づけられる大会です。海外からもチームが参加し、その規模やレベルの高さから、世界でも有数の燃費競技大会となっています。

この全国大会で最も優秀な成績を収めたチームには、本田技研工業株式会社の創業者の名を冠した『本田宗一郎杯』*が授与されます。Hondaが開催する競技のなかでも、創業者の名前を冠した大会はこの『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』のみであり、本大会の象徴ともいえる特別な賞となっています。

*本田宗一郎:本田技研工業株式会社創業者。1948年に本田技研工業株式会社(Honda)を設立。

04 憧れのサーキットを体感するチャンス!

全国大会は、二輪のロードレース世界選手権(MotoGP)や四輪のSUPER GTなど、様々な人気モータースポーツが開催されるサーキット「モビリティリゾートもてぎ」で開催されます。モビリティリゾートもてぎにはサーキット場のほか、Hondaの“技術の歴史”や“ものづくりの情熱”、“チャレンジングスピリット”を感じることのできる施設「HondaCollectionHall」や、広くモータースポーツに親しめる施設や、周辺の自然と親しむことのできる「ハローウッズ」やハローウッズキャンプ場もある参加型施設です。

全国大会のほか、鈴鹿大会では鈴鹿サーキット、九州大会ではHSR九州、もてぎ大会では全国大会同様、モビリティリゾートもてぎで開催され、それぞれの地域の参加チームが熱い戦いを繰り広げることになります。



Honda Collection Hall



ハローウッズ

●モビリティリゾートもてぎ



●Honda エコ マイレッジ チャレンジ



●ロードレース世界選手権(MotoGP)



●SUPER GT



05 技術とチームワークが培われるものづくり

本大会では、コースを完走するために、車両を製作する技術だけでなく、仲間とのチームワークが試される、中高生ならではの熱い戦いが毎年展開されています。『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』は、参加チームが自由な発想であらゆる可能性にチャレンジし、ものづくりを通して、仲間と力を合わせる喜びや楽しさを経験することのできる大会なのです。

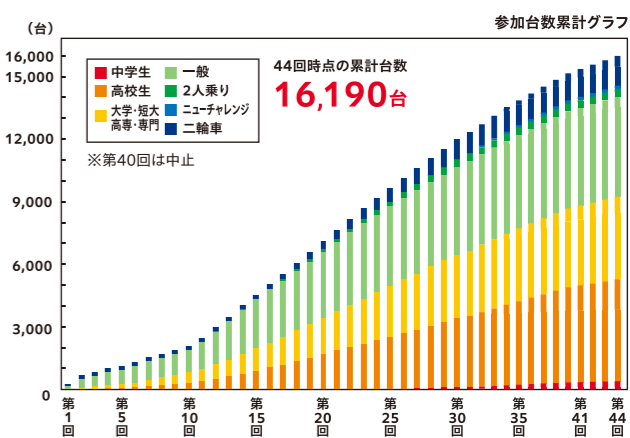


06 次の世代へつながる挑戦の場

第1回大会の参加チームは235チーム。その後、本大会はものづくりや低燃費技術への関心の高まりとともに参加チーム数を伸ばし、2008年には479チームと過去最多を記録しました。

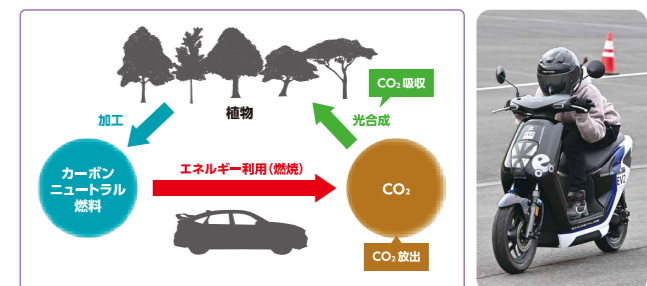
しかし近年は少子化の影響などもあり、参加チーム数はゆるやかな減少傾向にあります。さらに新型コロナウイルス感染症の影響により大会が開催されなかったことで、チームの世代交代が難しくなり、活動の継続が困難になった学校も見られました。

それでも『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』は、仲間とともに車両づくりに挑戦し、技術や経験を次の世代へつないでいく貴重な学びの場であり続けています。新しい発想と挑戦を持つ皆さんの参加によって、この大会はこれからも進化を続けていきます。



07 持続可能な大会を目指して ~カーボンニュートラル化への挑戦~

『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』は、環境に配慮した持続可能な大会を目指し、カーボンニュートラル化への取り組みを進めています。2024年には100%非化石由来のカーボンニュートラル燃料を使用するクラスを新設し、2026年にはすべてのクラスでカーボンニュートラル燃料への完全移行を実施します。さらに電動化への挑戦として、2026年には電動二輪車クラスも新設。『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』は、時代の変化に合わせて常に進化を続けています。



現在の最高記録(ハイオク燃料)は 3644.869km/ℓ。 1リットルの燃料で どこまで行けるのか!?

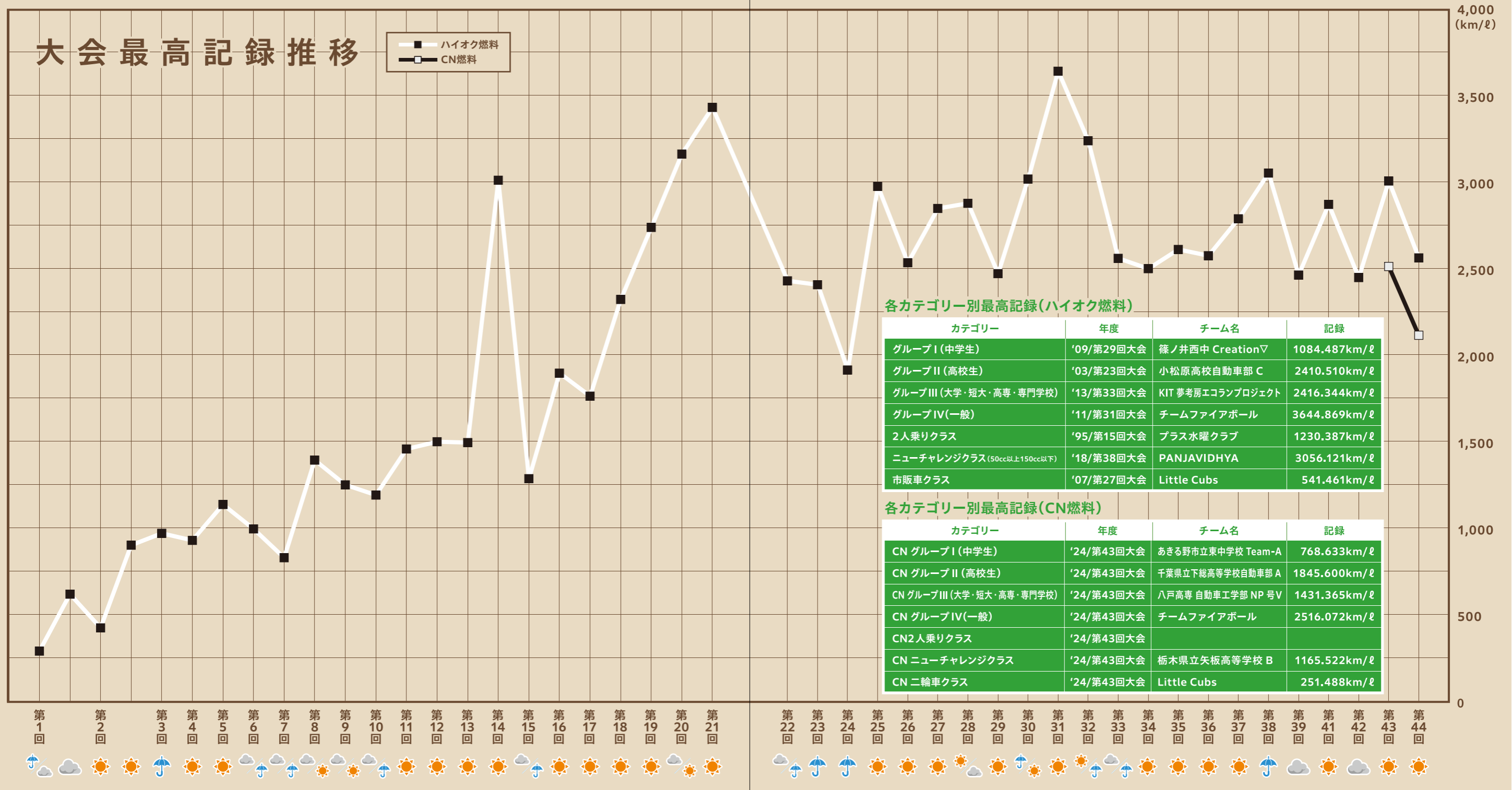
40年以上続く本大会が歩んできた道のりを
大会最高記録の推移で見ましょう。

「君は1リットルの燃料で日本一周できるか?」
そんなキャッチコピーを合い言葉に、1981年から続いてきた大会が『Honda エコ マイレッジ チャレンジ』です。第1回大会の記録は292.5km/ℓ。これは東京～名古屋間におよぶ距離に相当します。ここからスタートした燃費への挑戦は、大会を重ねるごとに大きく進化し、第5回大会には1,000km/ℓを突破。第14回大会では3,014.715km/ℓという当時の最高記録が生まれました。
そして2011年、第31回全国大会では3,644.869km/ℓという驚異的な記録が達成され、現在も大会最高記録として残っています。ちなみに冒頭のキャッチコピーにある日本一周とは、沖縄県を

除く46都道府県の主要都市を通るルート、総距離約6,000kmを指しており、日本半周以上に相当する距離です。
現在は大会のカーボンニュートラル化に向けた取り組みも進み、カーボンニュートラル燃料による競技も始まっています。2024年の全国大会では2,516.072km/ℓという最高記録が誕生しました。新たな条件のもとで燃費への挑戦は次のステージへ。車両の設計や形状、走り方など、あらゆる要素の効率化を追求しながら、参加チームはさらなる記録更新へ挑み続けています。その先にあるのは、1リットルの燃料で日本一周を達成するという夢の記録です。

大会最高記録推移

■ ハイオク燃料
■ CN燃料



各カテゴリー別最高記録(ハイオク燃料)

カテゴリー	年度	チーム名	記録
グループⅠ(中学生)	'09/第29回大会	篠ノ井西中 Creation▽	1084.487km/ℓ
グループⅡ(高校生)	'03/第23回大会	小松原高校自動車部 C	2410.510km/ℓ
グループⅢ(大学・短大・高専・専門学校)	'13/第33回大会	KIT 夢考房エコランププロジェクト	2416.344km/ℓ
グループⅣ(一般)	'11/第31回大会	チームファイアボール	3644.869km/ℓ
2人乗りクラス	'95/第15回大会	プラス水曜クラブ	1230.387km/ℓ
ニューチャレンジクラス(50cc以上150cc以下)	'18/第38回大会	PANJAVIDHYA	3056.121km/ℓ
市販車クラス	'07/第27回大会	Little Cubs	541.461km/ℓ

各カテゴリー別最高記録(CN燃料)

カテゴリー	年度	チーム名	記録
CN グループⅠ(中学生)	'24/第43回大会	あきる野市立東中学校 Team-A	768.633km/ℓ
CN グループⅡ(高校生)	'24/第43回大会	千葉県立下総高等学校自動車部 A	1845.600km/ℓ
CN グループⅢ(大学・短大・高専・専門学校)	'24/第43回大会	八戸高専 自動車工学部 NP号V	1431.365km/ℓ
CN グループⅣ(一般)	'24/第43回大会	チームファイアボール	2516.072km/ℓ
CN 2人乗りクラス	'24/第43回大会		
CN ニューチャレンジクラス	'24/第43回大会	栃木県立矢板高等学校 B	1165.522km/ℓ
CN 二輪車クラス	'24/第43回大会	Little Cubs	251.488km/ℓ

全てはここから。 参加車両の基礎を学ぼう

まずは車両がなければ参加出来ません。では車両を作るにはどうしたらいいのでしょうか？
ここでは、車両の基礎を学びます。競技規則のルールを守り、安全性を考えながら自由に車両を作ってみましょう！

車両について

参加車両は3輪以上とし、停止時・走行時にかかわらず自立できる構造にしよう。平坦な所で全輪が常時路面に設置するように製作しよう。

●車両サイズ規定

a 全高：1.8m以下

b ホイールベース：1.0m以上

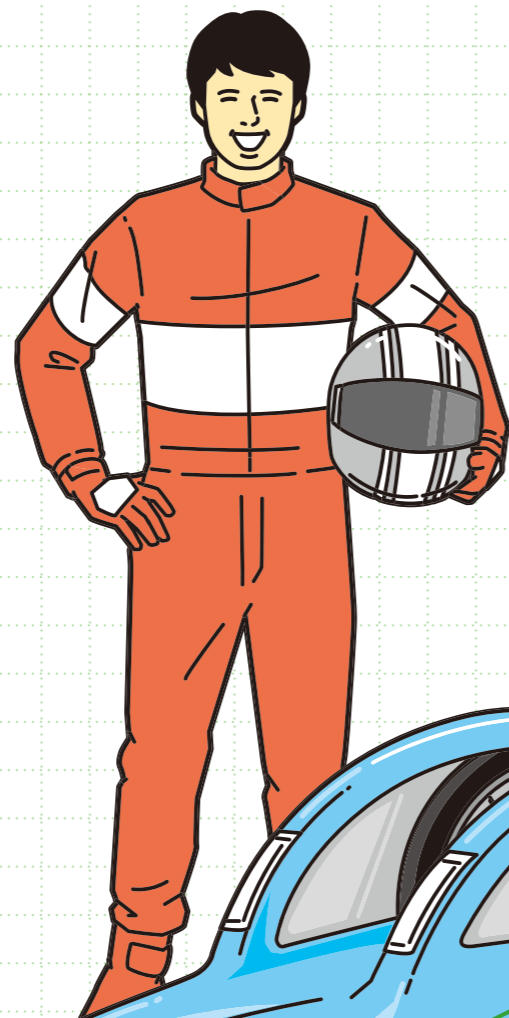
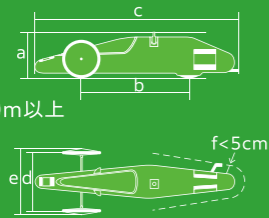
c 全長：3.5m以下

d トレッド：0.5m以上

e 全幅：1.7m以下

f エキゾーストパイプ(排気管)：ボディ端面より5cm以上でないこと。

※ボディ後方からの排気を強く推奨する。



服装

十分に安全の確保が出来るものとし、長袖・長ズボン・グローブ・靴下・靴を着用しよう。ヘルメットはJISやSNELL等、規格に適合した製品で傷のないもので、身の安全を守る為、ドライバーのサイズに合ったものを使おう。



フレーム

エコマイレージチャレンジの車両は、より軽く、エンジンやドライバーの重量を支えてくれるものを選ぼう。素材は木材、鉄パイプやアルミ等、チームによっては、軽量で耐久度に優れた素材を使用している。

ブレーキ

ブレーキは、手でも足でも操作するのは自由だが、確実に止まるようにしよう。安全の確保のために、それぞれ操作部(レバー等)も含め必ず2系統用意しよう。

タイヤ

耐久性があり、抵抗の少ないものを選ぼう。



トランスポンダ

大会当日に、主催者から貸与される自動計測用発信器のことで、周回数・タイムを自動計測する。車両先端より40cm以内の車両側面に取り付けられるように車両を製作しよう。

縦33mm 横37.6mm
厚さ18.5mm 重量約16g



カウル

主な目的として、「空気抵抗」を減少させることで、軽くて耐久度の高いものを選ぼう。素材は様々で、中にはプラスチックダンボールを使っているチームもいる。最近では、デザイン性に優れた車両も多い。空気抵抗の減少を意識しすぎて、ドライバーの運転姿勢に無理が出ないように注意しよう。



燃料タンク

大会当日に、主催者から貸与される容量180ccの円筒形で「基準線及びコック」を持つ透明なガラス製の燃料タンク。取付部分は各自で製作し、取付方法は自由だが、取り外しが容易な構造にしよう。燃料タンクの基準線が水平となるように取り付けよう。



エンジン

Honda製4ストロークエンジンを使用。スーパーカブのエンジンをベースとしたものが多く見られる。キャブレターとPGM-FIのどちらを使用してもよい。

■PGM-FIとは？

Programmed Fuel Injection(電子制御燃料噴射装置)の略。

様々な走行条件に応じて、電子制御で最適な燃料を供給する装置のこと。

※50ccスーパーカブのエンジンが購入可能。詳しくは大会公式ホームページへ。



二輪車クラスについて

Honda製4ストローク150cc未満の市販車両であれば、どの車両でも参加できる。入門クラスとしては最適。灯火類は転倒時にガラス片が飛び散る恐れがあるので取り外したり、燃料タンクを取り付けられるようにする等、必要最低限の改造で参加車両の完成。



燃費計算

「公式距離÷(消費燃料重量÷燃料密度)=燃費」の式を使い、主催者側が算出する。

燃料密度は大会当日に発表される。スタート前に燃料計測を行い、ゴール後に再度燃料計測を行い、消費重量を算出する。

大会最高記録は3644.869km/ℓ。

仲間と一緒に目指せ 完走!

製作した車両で大会に参加しよう。
ここでは会場ゲートオープンから表彰式まで、大会の1日の流れを紹介します。

1 ゲートオープン

早朝ゲートオープン。スタッフの指示に従いながら会場に入ります。



2 参加受付

会場に入って車両を停めたら、参加受付をします。周回数とタイムを計測するトランスポンダや、ゼッケンシート・大会公式ステッカー等を受け取ります。

大会公式ステッカー ゼッケンシート



3 燃料供給

車検を終えたら、燃料供給テントで大会公式燃料の入った燃料タンクを受け取ります。ガソリンは主催者が用意する公式燃料のみを使用し、その他燃料の使用は一切禁止しています。



4 スタート前燃料計測

大会公式燃料タンクを受け取ったら、スタート前の燃料計測を行います。



5 車検・スタート前チェック

車検では、ドライバーの装備や視界が確保されているかはもちろん、車両構造の安全性とともにブレーキ検査を行います。車検を通過しなければ走行が出来ないので、参加者にとっては緊張の瞬間。決勝当日にもスタート前チェックで再度点検を行います。



6 参加者ミーティング・開会式

当日の燃料密度の発表や大会の注意事項を再度確認します。フラッグのルールなどの説明も聞きます。決勝当日は開会式を行い、いよいよ競技がスタートします。



7 燃料微調整

コースに出る前に燃料微調整をします。エンジンをかけて調整したり暖機をした時に消費したガソリンを規定値まで補充してもらいます。ここで誤差が出ないように、スタッフも参加者も真剣です。



8 スタート

微調整が終わったらスタートラインへ向かい、フラッグが振り上げられたらいよいよスタートです。トランスポンダの計測ラインを越えたら計測を開始します。



9 走行

エンジンを始動させて、ある程度の速度でエンジンを切り惰性走行します。これを繰り返し、平均速度25km/hをキープして規定時間内に規定周回数(各大会により異なる)を走行してゴールを目指します。スピードを競う競技ではないので、抜かれても焦らず、チームの走りを貫こう。



10 ゴール・燃料計測

いよいよゴールです。車両を停めて燃料タンクを取り外し、計測に行きます。あとは結果が出るのを待ちましょう。



11 表彰式・閉会式

結果が発表されたら、表彰式を行います。各カテゴリーの上位入賞チームがそれぞれ表彰されます。燃費記録の他にもデザイン賞などの特別賞も設けられ、全カテゴリーの中で最も良い燃費記録を達成チームには、「最優秀賞 本田宗一郎杯」が贈られます。



大会の1日の流れ

- ①ゲートオープン ▶ ②参加受付 ▶ ③燃料供給 ▶ ④スタート前燃料計測 ▶ ⑤車検・スタート前チェック ▶ ⑥参加者ミーティング・開会式 ▶ ⑦燃料微調整 ▶ ⑧スタート ▶ ⑨走行 ▶ ⑩ゴール・燃料計測 ▶ ⑪表彰式・閉会式

出場チームが語る 競技の先にある感動とは？

競技に出場したチームには、それぞれにドラマがあり、感動があります。そんな体験談をご紹介します。

学校法人松韻学園 松栄高等学校

グループ
II



所在地 福島県南相馬市
クラブ名 EPL
出場大会 全国大会/10回
/回数 もてぎ大会/2回
メンバー 10名
準備期間 半年間
準備費用 約20万円



10年連続リタイアなし！ 日々の努力の証です。

私たちのチームの前身は、ロボット競技大会に出場していたロボット研究会です。そこから、よりスケールの大きな製作活動にチャレンジしたいという生徒たちの要望から出場することになりました。それから10年。今では『Honda エコ マイレージ チャレンジ』が活動の中心になり、会の名称もEPL(エコノパワー研究会)へ。それにとまぬ技術や知識のレベルも飛躍的に向上し、第27回、第30回の大会では優勝することができました。

ただ、私たちにとっては、優勝したこと以上に、10年連続で一度もリタイアしていないことの方が自慢です。機械科もある工業高校ということで、普段から工作機械などに接する機会は多いのですが、連続完走記録はより専門的な技術や知識を学ぶことができた結果だと思っています。

今後も燃費を追求するという大会のすばらしいテーマに向かって、チームでアイデアを出し合いながら出場していければいいですね。

ピットに入らない部員も 一体となれる特別な体験。

学校で環境について勉強している中で、一滴のガソリンの重要性を知るには、『Honda エコ マイレージ チャレンジ』に出場することがいい勉強になると思い、顧問が生徒に呼びかける形で出場を決めました。

最初は不安もありましたが、いざ、出場するとすると、興味をもった生徒たちが沢山集まり、部は50名もの大所帯に。結果的に2チームでの出場となりました。ところが、人数が増えることで、バラバラになるどころか、逆にチームが一丸となり、準備段階から協力し合うことを学んだように思います。なかでも忘れられないのは、第30回大会の当日です。ピットに入ることができるメンバーは、大会規定でドライバーを含めて5名。うちは2チームなので、10名だけがピットに入ったのですが、ほかのメンバーがコースに散らばって、全員で応援や記録を行ってくれたんです。とくに指示をしたわけでもなく、自主的に部員からそういった行動が生まれたことは感動的でした。そして結果は1チームが優勝！ その瞬間、まさに全員で喜びをわかち合えたのは、何ものにも代え難い経験です。

もうひとつ印象的だったのは、当日、私たちが修理に困っていると、他のチームがいろいろと助けてくれたことです。部内、学校内での団結に加えて、他の出場チームとの交流の中で、助け合う気持ちまでを学べました。これからも、人間的にも技術的にも成長を目指して、また出場していくつもりです！

グループ I 川崎市立 宮前平中学校



所在地 神奈川県川崎市
クラブ名 工学部
出場大会 全国大会/4回
/回数
メンバー 50名
準備期間 1年間
準備費用 約34万円/2台
(1台あたり約17万円)

文京学院大学 女子中学高等学校

グループ
I II 二輪車



所在地 東京都文京区
クラブ名 環境自動車同好会
出場大会 全国大会/2回
/回数 もてぎ大会/2回
メンバー 10名
準備期間 半年間
準備費用 約30~40万円



知識も経験もないけれど…。 今競技に夢中です！

もともと中学3年生のとき、自主研究という授業で理科を選択した生徒数名が第29回大会に初出場したのが、私たちのチームの始まりです。そのメンバーが高校に入っても、出場経験が忘れられず、「また出場したい！」と『環境自動車同好会』を設立しました。といっても、自動車に関してはほとんど知識がないところからのスタート。それこそ少ない知識をフル活用して車体造りにも取り組みました。大会当日も「エンジンがかからない！」「コックを開け忘れた！」とトラブルの連続。しかし、そんな中でもチームが冷静に対処することで、なんとか第30回大会では目標だった完走を達成することができました。

まだ出場2回という若いチームですが、今では部員全員が『Honda エコ マイレージ チャレンジ』にゾッコンです！ 合い言葉は「あげー！」(テンションを上げていこう)。これから出場を考えている方々も、一緒に盛り上げていきましょう。

好奇心と仲間がいれば、 誰でも出場できます！

『Honda エコ マイレージ チャレンジ』に出場するために必要なもの。それは好奇心、そして仲間だと思います。

当初、私たちは顧問も含めて、自動車に関してまったくの素人でした。部員の中には、ネジさえ回したことがない者もいたくらい。まさにゼロからのスタートでした。そこからインターネットや書籍を読みあさり、トライ&エラーをくり返し、第30回大会に出場するにいたりました。しかし、当日は予期せぬ雨。クラッチが不調になったこともあり、スタートの直前までエンジンがかからないというトラブルに見舞われました。奇跡的にスタートの1分前にエンジンがかかり、全員で狂喜乱舞！ 私たちはこのことを偶然ではないと思っています。最後まで諦めない気持ちがギリギリで伝わったんだと思っています。それほど、その時の喜びや一体感は貴重な体験でした。

私たちの部は普段、一人ひとりが好きなものを製作しています。自由に楽しんでいる一方で一体感を得られる機会は少なかったと思います。しかし、大会出場で「みんなで何かをやり遂げる」ということを学ぶことができ、今は部員たちから「もう一度出場したい」という声が出てきています。

私たちはこれらの経験から、好奇心や仲間がいればどんなことでもやり遂げることができると思います。知識や技術はその次なんです。これから『Honda エコ マイレージ チャレンジ』に出場を考えているみなさん、一緒に競技を楽しみましょう！

グループ I 公文国際学園 中等部



所在地 神奈川県横浜市
クラブ名 化学技術研究部
出場大会 全国大会/4回
/回数 もてぎ大会/2回
メンバー 13名
準備期間 半年間
準備費用 約18万円

大会詳細はこちら

公式ホームページ

<https://global.honda/jp/emc/>

